

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年10月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400739		
法人名	社会福祉法人 円融会		
事業所名	グループホーム サルビア		
所在地	兵庫県神崎郡福崎町大貫580 (電話) 0790-22-6001		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年9月26日	評価確定日	平成20年10月28日

【情報提供票より】(平成20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 6人, 非常勤 7人, 常勤換算	10.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	約17,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	7	要介護2	7		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 87.7 歳	最低	70 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田医院・加西市民病院・原田歯科
---------	------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな山のふもとにあり、辺りは稲刈りの終わった田んぼが広がって、四季の移り変わりを間近に感じられる自然に囲まれたホームである。同一法人の特別養護老人ホームとデイサービス事業所と同じ建物の一画の1・2階(各1ユニット)で、玄関は独立している。開設から3年経ち、広々したりビング他、最新の設備ながら生活感が出てきて落ち着いた印象を受ける。助け合い、補い合える関係作りに配慮した支援をしており、入居者はゆったりと思いいの時間を過ごされている。よりその人らしい生活ができるよう、センター方式(認知症の方への事前評価の一種)に取り組み準備をしている。それぞれの新たな楽しみごとの発見を期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価の結果を職員で話し合い、検討している。介護計画は職員の日々のケアから問題点を拾い上げるようにし、より現状に即した計画作成に努めている。終末期に向けた方針の共有もホームで看取った事例があり、実績により改善に向け一歩前進したといえる。理念に関しては、今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
重点項目	職員の総合的な支援の実現にも向け、ユニットごとの職員の配置をしていない。職員がそれぞれ全体の自己評価を行い、それを管理者がまとめている。日々の支援を改めて振り返り、見直す機会だと捉えている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
重点項目	地域に密着したホームを目指し、区長・民生委員・地域包括支援センター職員など各分野の方々の参加により、運営推進会議を開催している。公民館の活動であるミニデイに参加したり、逆にミニデイの参加者をホームに招くなどの機会作りを提案している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
重点項目	面会や電話により、家族への報告や連絡は密に行い、苦情も直接言ってもらえるような関係作りに努めている。意見箱の設置はないが、家族会は年2回行っており、話し易い環境を作っている。苦情処理は記録し、職員間での共有・再発防止に役立てて欲しい。また、運営推進会議に家族の参加を呼びかけているが、平日開催のため参加は難しく実現していない。
	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	公民館での行事に参加したり、クリーン作戦に参加して地域活動を行っている。秋の祭りには特別養護老人ホームと共同で屋台の訪問を実現し、喜んでもらった。地域住民との交流もあり、時々ホームへの訪問がある。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に暮らす」という法人全体としての基本理念に加え、グループホームの理念として「補い、助けあい、共に生きる」を掲げている。		グループホームの母体法人との理念の整合性もあるようだが、グループホーム独自の理念として平成18年の制度改正による明確な理念が必要である。「地域住民との交流の下で」に改められた意義を確認し、ホームと地域の関係性強化を謳った理念をつくりあげてほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者主体のケアとして、できる事は何か補う事は何かを常に意識し、ミーティングや職員会議で具体的に確認しあっている。		理念をケアの基本とする位置づけはなされているが、地域との関係性が重視されている内容についても合わせて意識づけされることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館がホームと隣接している好立地にあり、地域の公民館活動であるふれあい喫茶、ミニデイに参加して気軽に交流できている。クリーン作戦にも積極的に参加し、また、お祭りの屋台がホームの敷地にも訪問してくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	認知症ケアにゴールはないという視点に立ち、自己評価の作成は職員全員が参加し、振りかえりを行っている。ややもすると見落としがちなケアに気づき、固定観念を打ち破る糸口として捉え、新たなゴールの目標としている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議ではグループホームが地域で果たす役割について具体的な提起も行いながら、日常的な交流のあり方の方策について意見交換を行っている。地域からの要望として『認知症の理解』について講師依頼を受けることもある。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町の担当者にホームの考え方や運営等の実情を積極的に伝えている。地域密着型サービスとして町との連携は特に大切と捉え、取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々の暮らしについて家族の面会時には必ず報告を行っている。機関紙「グループホームサルビア新聞」を年4回発行。家族会は年2回実施しており、制度の内容等を含めた報告とともに食事を囲んで楽しく交流を行っている</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>地域の特性でもあるが、率直で忌憚のない付き合いが地域の風土でもあることから言いたいことを言い合える関係がある。苦情も出し易い関係づくりを大切にしている。重要事項説明書には「苦情受付は管理者」と明記し、意見箱の設置は儀礼的すぎるという捉え方があり設置していない。</p>		<p>家族等の意見、不満、苦情等をホームの運営に反映させていく取り組みとして、運営推進会議への家族の参加も必要である。平日、昼間の開催ということもあり、参加が得られていないのであれば検討が望まれる。又、苦情相談記録簿についても整備が求められる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は、ご本人にとっても、家族にとっても影響が大きいことから経営母体間での異動は最小限と心掛けている。同時にユニット毎の職員の固定をしないことにより、馴染みの関係を増やし、異動や離職によるダメージを防ぐ工夫をしている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経営母体である法人全体の研修は定期化されており、接遇研修、介護技術を中心にした研修を実施している。それに加え、月1回の職員会議、各ユニット毎のミーティング、日々の小ミーティングには、パート職員も含む全職員が参加している。外部研修は希望者が参加するようにしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町内に4か所ある事業所とは不定期ではあるが必要に応じて交流を行っている。「連絡会」等の必要性は切羽詰まっていたもの、町からの要請もあり、検討課題として捉えている。</p>		<p>他の同事業所との交流や連携を強化するネットワークづくりは、事業所のみならず、地域全体のサービス水準の向上につなげる上でも不可欠な課題であろう。町行政の要請を受け、その主導役を担っていただくことを期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居にあたって2回はホームを訪問してもらい、入居者の方とティタイムの機会を設けている。田舎特有の文化もあり、環境に馴染みやすい利点もある。日頃使っていたなじみの品物も部屋に置かれ、安心感を持ってもらうようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「共に暮らす」という視点で、食事づくりでは味付けや切り方を教えてもらったりしている。支援する側、される側にとられることなく疑似家族としてを念頭においた生活を築いている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの把握はとてもむずかしいことであると認識しており、常にアンテナを張って把握に努めている。希望や意向等を明確に把握できない時は選択肢を提案しながら本人本位を貫いている。</p>		<p>利用者一人ひとりの思いや希望、意向等の把握は「むずかしいこと」とであるという認識はこの課題を真剣に捉えていることが伺える。もう一步深めるために、センター方式（認知症の方への事前評価の一種）の活用について検討されることを期待したい。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初期アセスメント表では過去の生活歴の把握に努めている。援助プラン表、サービス計画表の作成にあたっては、「ケアプラン職員意向聴取表」に記入する方法を取り、職員全員でカンファレンスや意見交換を行って作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成にあたっては、目標をもった介護計画を策定し、ご家族にもチェックをかかさないようにしている。気づき、意見については実情に応じて柔軟かつ臨機応変に見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>地域との日常的な交流を通じて、野菜の収穫時には差し入れをいただくこともあり、その機会を通じて昼食にお招きするミニデイの取り組みや、地域の福祉の拠点として交流にむけた活動計画も検討されている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本はかかりつけ医の受診としている。通院介助は職員がすべて同行しているため家族は「おまかせ」という形になってしまい、そのため業務に支障が出ることもある。家族に協力を要請しているが、理解が得られていない。</p>		<p>かかりつけ医の通院介助の方法や受診結果についての伝達方法等はご家族とよく話し合い、ルール作りが必要である。サービス内容にも触れることであり、家族の理解を得るための工夫が必要であるが、取り組みを期待したい。</p>
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホーム開設3年間でお一人看取った経緯もあり、家族の意向に応える努力はしている。職員は「共に暮らす」の理念を終末期までも含めた思いを強く持っており、看取りの介護についても前向きな姿勢を持っている。</p>		<p>できるだけ早く本人、家族、かかりつけ医や看護師等が方針や支援の具体的内容について話し合い、ホームとして対応しうる最大の支援方針を共有することが望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者一人ひとりの人格を尊重することは、親しくなる程におろそかになりがちと戒めながらプライバシー保護の徹底とともに職員の意識向上を図っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の体調や表情をよく観察しながらお手伝いを頼んだり、買い物に出かけたりしている。晩酌やタバコも楽しんでおり、柔軟に対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オープン式の使い勝手のいいキッチンでは、野菜を切る係り、味付けを担当する係り、食卓に運ぶ係りと手際よく準備等が進められ、入居者の方々が釣ってきた魚が食卓にのることもあり、和やかな食事風景となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は夜間浴を基本としており、一人ひとりの意向でくつろいだ気分で入浴できている。入浴を望まない時は無理強いせず、清拭で対応する事もある。夜間入浴は、ぐっすり安眠でき、生活リズムが整う利点があるので大切に取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の在宅での生活歴が何もしない、させないパターンになっていたためか、依存傾向もあり、意欲を引き出すまでに時間がかかることもあるが、気長に働きかけている。男性の利用者は、魚釣り、畑仕事、晩酌を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみごとや希望、要望に応じて魚釣り、畑仕事、外食、買い物等に出かけ楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険が危惧される場面もあるが、夜間の防犯上以外は一切鍵はかけない方針を貫いており、家族や地域の方々も自由に出入りが可能となっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	年に2回の消防訓練に加え、地域の協力も前向きであり、地元の消防団による訪問も定期化している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	食事は職員が朝、昼、夕の献立をたて、栄養士による栄養バランスチェックが行われている。摂取量については「食事状況チェック表」に記載し、水分補給については「水分チェック表」による把握が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	洋風の外観から、一歩足を踏み入れた共用の空間はおしゃれな作りになっている。開放感をもたらす大きな窓、居間からは洒落たミニ庭園が安らぎをもたらしている。季節感を漂わすかれんな花が満載で、喫煙コーナーも確保されており、居心地よく配慮されている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	掃除も行き届き清潔感もあり、行け花の愛好家が活けた花が、居室の雰囲気優雅に演出している。一人ひとりが馴染みの物を愛用して居心地よく過ごしている。		

 は、重点項目。